

# 2023年度 第1回自治医科大学附属病院医療安全管理監査委員会報告書

## 1 日時

2023年10月12日(木) 13:00~15:00 Zoom 会議

## 2 監査委員

委員長 尾澤 巖(地方独立行政法人栃木県立がんセンター 理事長)  
副委員長 大槻 マミ太郎(自治医科大学 副学長)  
委員 内山 聖(学校法人悠久崇徳学園 常任理事  
(公財)新潟県保健衛生センター 副会長  
山口 育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)  
齊藤 正昭(自治医科大学附属さいたま医療センター 医療安全管理室長)

【敬称略】

## 3 自治医科大学附属病院出席者

管理者	川合 謙介(病院長)
医療安全管理責任者	新保 昌久(副病院長、医療の質向上・安全推進センター長)
診療録管理責任者	興梠 貴英(病院長補佐、医療情報部長)
医薬品安全管理責任者	今井 靖(医薬品・医療機器安全管理部門長)
医療機器安全管理責任者・代理	木村 好文(臨床工学部技師長)
医療放射線安全管理責任者	森 壘(医療放射線安全推進センター長)
感染制御部長	笹原 鉄平
病院事務部長	平寄 正俊

## 4 議事内容

### 1 自治医科大学附属病院医療安全管理について

#### ① 2022年度活動報告及び2023年度目標と中間報告

資料に基づき、医療安全管理責任者から報告された。委員より下記の質問があった。

Q:テクニカルアラームを減らした後のさらなる取組みはあるか。

A:活動を始めたばかりであるため、アラームが減ったかどうかを成果としてみる事となる。

さらに、アラームが減ったことが適切な対処につながっているかを評価するにはもう少し時間がかかるとしており、その評価までは実施する方向で進めている。

Q:外来におけるICの同席状況はどのような状況か。

A:待機的手術で外来においてICを行った場合でも、入院して手術室で行う手術は全てIC欄に記載する対象となっている。外来でのICで同席が必要な際は、スタッフステーションに連絡をして同席をお願いしている。

Q:ACPの取組みについて、患者さんに向けた説明はどのような状況か。

A:入院手続きをする場所に県が作成した動画を放映しており、また、ACPコーナーを設置し、下野市作成の冊子を置いている。また、今年9月の医療安全・感染対策合同講習会において、ACPに関して説明を行った。

Q:各部署の主体的な取組みで印象に残るような取組みはあったか。

A:印象に残っている取組みは、5月と11月の2回評価を行ったが、11月の評価が下がった部署があった。他の部署では評価が上がる中、この部署だけ下がっていたため理由を聞くと、5月のチェック時には担当者のみがチェックリストに回答したが、その後インシデントが時折み

られたため、11月のチェック時には所属全員で回答したことから、評価が下がったとのことであった。

- ② インシデント報告件数及び報告内容  
資料に基づき、医療安全管理責任者から報告された。

## 2 今年度の取り組み事例紹介

- ① ICにおける理解支援の具体例提示  
資料に基づき報告された。
- ② 研修医の教育、インシデントレポートの質向上について  
資料に基づき報告された。
- ③ 医薬品の安全管理  
資料に基づき報告された。委員より下記の質問があった。
  - 1) 筋弛緩薬についての院内統一の運用・体制について  
Q：医薬品の安全管理について、麻薬も筋弛緩薬と同じ管理か。また職種ごとや職種内でオーダーの可否について制限はあるのか。  
A：麻薬も同じ管理となる。オーダーについては、職種職歴で制限はしていない。
  - 2) 手術前休薬が必要な薬剤、内視鏡時の抗血栓薬の取り扱いについて  
Q：術前の抗凝固薬の休薬について、患者向けの説明はどのように行っているか。また、休薬により塞栓症のリスクについて、同意書のようなものは取っているのか。  
A：説明に関しては一部周術期センターにて説明をしている。塞栓症リスクについては議論中である。
- ④ インスリン10倍量投与インシデントからの改善への取り組みについて  
資料に基づき報告された。委員より下記の質問があった。
  - Q：インシデントから改善への取組みで、ダブルチェックの工夫をすすめているとあったが、具体的にどのように工夫しているのか。  
A：二者確認、または、確認のタイミングをずらして確認することを考えている。

## 3 2023年度高難度新規医療技術の導入及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供について

- ① 高難度新規医療技術の申請及び審査状況
- ② 特定診療の申請及び審査状況
- ③ 未承認新規医薬品の申請及び審査状況
- ④ 適応外医薬品使用の申請及び審査状況
- ⑤ 未承認新規医療機器の申請及び審査状況
- ⑥ 適応外使用医療機器の審査体制について

各担当部門責任者より申請状況等の報告がされた。

## 4 医療放射線安全管理の現状について

資料に基づき、医療放射線安全管理責任者から報告された。

## 5 自治医科大学附属病院における院内感染症対策について

資料に基づき、感染制御部長から報告された。

## 6 その他

特になし

### 【講 評】

○医療安全に対して適切に対応されていると考えている。毎回の取組み発表について感心をしている。今後 DX が導入されてくることが予想されるが、それを医療安全にどのように活用していくかが課題であると思っている。医療安全はマンパワーが必要とされるので、DX の活用について検討している。

これからも栃木県内の他の病院の手本となるような医療安全の構築を期待したい。

○絶えず工夫しながら対応していると思う。引き続き全国の模範となるよう取組みを続けてもらえたらと思う。

○毎年共通の課題を見つけ、解決に向けて病院職員が一丸となって前に進んでいる。いつも感心している。地方の病院は医療安全に対する取組みが今一步であることから、様々なトラブルが起きているのが実情としてある。先端的な取組みを実施していただいて、そして色々な機会を通じて公にし、他の病院のお手本になっていただければと思う。

手本がないところで工夫して前に進んでいる。先進的で、日本のトップクラスの病院である。今後の活躍を期待したい。

○本日のご報告を伺って、インフォームド・コンセントの記載、同席の充実、インシデント数の増加や研修医へのインシデントレポートの研修など、確実に医療安全の取組みが進化していることを実感した。ただ一方で、医療安全については次々に注意喚起の必要な問題が生じるので、情報量が多過ぎでも職員の方への周知に至らないという問題もあると思う。効果的な周知のあり方を個々に考えることが大事ではないかと思う。

○医療安全に関して適切に取り組んでいると思う。インシデントレポートが増えているが、今後看護師さん等の負担が増えてくると思うが頑張っただければと思う。今回感銘を受けたのは、IC の同席についてである。7つの項目を設定し、高い同席率があるのは皆様の工夫の賜物と思う。

以上